

今話題の

楽天・三木谷浩史氏が来町

——淀江町生涯教育大会兼第32回社会教育大会——

今後の淀江町地域のあり方や心の通いあう地域づくりについて考えようと、2月6日(日)に町文化センターで町生涯教育大会兼第32回社会教育大会が行われました。

今年も昨年と同様に、ゆめ基金活用委員会共催事業として、今シーズンからのプロ野球新規参入を果たした今話題の三木谷浩史さん(楽天株式会社代表取締役会長兼社長、株式会社楽天野球団オーナー兼取締役)をお迎えし、記念講演をしていただきました。その後は、淀江町ゆめ基金



忙しいスケジュールの中、来ていただいた三木谷さん

の創設に関わっていただきました淀江町出身の吹野博志さん(株式会社吹野コンサルティング取締役社長)と三木谷浩史さんの「夢く新たな挑戦」と題して対談をしていただきました。

今大会は、ぜひ三木谷さんの講演を聴きたいと町内外から約900人もの皆さんが町文化センターに集まりました。当日は、別室でモニターが用意され、ホールに入ることのできなかった皆さんも三木谷さんの講演を楽しむことができました。

記念講演から

「ベンチャーマインドが次代を創る」

三木谷さんは、神戸出身だそうで、お祖母さんが皆生に別荘を持っておられて米子にはよく来られたそうです。

三木谷さんは、一橋大学に入学され、バブル絶頂期の当時、日本産業界で重要な役割を果たしていた日本興業銀行

に入行されました。当時の日本では大企業中心主義で、会社を設立するなど大企業に入れない者がすることだという風潮の中、三木谷さんはアメリカ・ハーバード大学に留学。

日本とは違って自分で会社を興すべきだということがよく言われるアメリカで、「日本も大企業中心ではなく、若者が新しい企業を創ることが経済の活性化となる」と考え始められたようです。

そして阪神大震災のとき、三木谷さんの親戚の中にも亡くなられた方がおられたそうです。このとき「人間って死ぬんだなあ」と思い、ふと会社を辞めようと思われたそうです。

「人生での一番のリスクは、お金でなく後悔しないことだ」と話す三木谷さんは、自分で会社を設立した後、インターネット情報は何よりも早いということを実感。インターネットの普及を予見して、インターネットショッピングを実行されました。まず、三木谷さんは通販マーケットに目をつけ、インターネットを使うとカタログの作成は必要ないので「これは儲かる」と考えられたそうです。誰もインターネットの普及を信じなかったようですが、

今では楽天の売上上げは1か月360億円、年4千500億円にもなり、出店数も多い楽天市場インターネットショッピングを確立されました。

「ビジネスで成功するには、リーダーシップと将来を予見する能力・直感力が必要。右脳で考えた直感を左脳で論理的に考えることができるかが大事」と三木谷さんは話され

対談から

テーマ『夢く新たな挑戦』

三木谷浩史氏
吹野 博志氏

対談は、三木谷さんの大学の大先輩であります吹野博志さん(淀江中学校第10期卒業)が、終始リードして行われました。対談から三木谷さんのコメントを少し紹介します。

「三木谷さんコメント」



吹野さん(左)と三木谷さん(右)

韓国、中国の時代であり、山陰は表玄関になる可能性もあると思います。インターネットが普及してきた現在では、もはや日本全国情報の格差はなくなってきました。そのうち、テレビ電話がただで使える時代が来るでしょう。情報の格差がなくなれば、自然が好きという人が鳥取に住むようになる。鳥取県、淀江町はいいところがたくさんあるので、そういう所を活性化していくことが重要です。」

吹野さんの「米子の球場でぜひ楽天の試合を」という言葉に三木谷さんは「ファンが増えれば」と可能性を残しつつ、「楽天イーグルスを応援してください」と言っておられました。

ました。

今シーズンからはプロ野球に登場する楽天イーグルス。「野球の経営は難しい。儲からない」と言われる中、三木谷さんはベンチャーだからできる今までないような収入を考え、楽天イーグルスを盛り上げていこうとされているようです。